

【授業者の自評】

本単元は、本来2月に行う予定の単元である。しかし、今回は1年生の折り返しの時期に扱うということで、タブレット端末を学習用具の一つ(文房具)として扱う素地作りにもなったと思う。

1年生の発達段階としては、具体物操作が大切な時期である。そのため、タブレット端末上でも、何度も何度も繰り返して作業ができるように工夫した。おはじきや数図ブロックを使わせると、出す・しまうに手間取る子がおり、どうしても活動が滞ってしまう。タブレット端末を使用することは、子供たちの作業の手数を減らし、より多くの問題に取り組むことができるというメリットがあると考えている。何度も繰り返すことで、「同じ数ずつ分ける」ことへ慣れさせることをねらった。

ねらい通り、子供たちは、「もっとしたい」というやる気をもって取り組むことができていたようだ。しかし、学習の最後に時間が足りず、活動を止めてしまった。これからも、体験をたくさんできるよう工夫していきたい。

また、本学習を組み立てていく中で、クッキーの画像を具体物と捉えるのか、半具体物と捉えるのかについて、非常に悩んだ。ICTの面、1年生という成長段階を考えた面など、様々な面からご意見をいただきたい。

【研究協議後の各グループの発表】

*柱1について

(好評)

〈文房具としてのICT機器〉

- ・机上にタブレット端末だけというのは、整理されていて、活動がしやすい。支援を要する子供も活動しやすい。
- ・児童が、意欲的にタブレットを使用していた。タブレット端末を使わせていくこと(慣れること)が大切なので、その一歩としては効果的。ICT機器の文房具化という点から考えると、タブレット端末に触れる機会を数多く設けることは大切。1年生の力でできることを取り入れていくことが大切。

〈タブレット端末と児童との関わり〉

- ・児童が直感的に操作できていた。効果的に活用できていた。一人ずつ活動することで、理解が深まっていた。
- ・ブロック操作時の音が気になったり、不器用で落としたりする子にとっては、タブレット端末を使っただけの方がやりやすそう。また、タブレット端末の方が活動がスムーズ。
- ・ブロック等の具体物ではなく、タブレット端末で取り組むことで、何度も問題を解かせることができる。
- ・タブレット端末を使うことで、一問ずつ片付ける必要もない。書き込むページが分かれているので、同じ12個でも様々な分け方ができるということを振り返りやすい。
- ・お皿とクッキーを出して分けるというより実生活に近い活動であったため、子供たちの“同じ数ずつ分けてたい”という意欲を高めることができていた。また、自分で皿とクッキーを準備させることで、どれくらい文章問題の題意を理解できているかを把握することができる。
- ・一目で児童全員の回答を見ることができるのはICT機器を利用するよさ。個別対応もしやすい。

〈本時の学習に対する具体的な意見〉

- ・「〇こ」は均等ではない、「〇こずつ」は均等 27 児童がしっかりと理解することができていた。
- ・皿を何枚準備したらよいのか考えさせることで、何人で分けるのかという本時のねらいにせまっていた。
- ・元の数进行を固定することで、いろいろな分け方ができることに気付くことができたと思う。
- ・図をよく見て考えた子は、式も間違わずに書くことができていた。
- ・導入から最後まで「同じ数ずつ」分けることの必要性を感じていたのがよかったし、繰り返すことで、「同じ数ずつ分ける」の概念を少しずつ理解していく過程を見ることができた。
- ・最後に実生活と結び付けて、たくさんの人数で分けると、もらえる分が少なくなるということをとらえられたのがよかった。

(課題)

- ・ タブレット端末の操作には慣れも必要。誤操作も見られた。
- ・ 間違えたまま終わっている子が見られた。確認の時間がもう少し必要だった。
- ・ 電子黒板に全員分映し出すことで、それを見て、友達に聞きに行く選択をする子が出てくるような指導が今後あるとよい。

(質疑応答)

〈タブレット端末の使用について〉

Q: 日々の授業でどの程度タブレット端末を使用しているか。

A: 2学期になってやっと使用し始めた。これまで、生活科で写真を撮ったり、音楽でリズム遊びをしたりの方しかしていない。スカイメニューの発表ノートの使用は、今回の学習が初めて。

Q: タブレット端末を使用する場合の子供のノート使用は？

A: 机上の整理が難しいため、基本的には、ノートとタブレット端末の同時使用はさせない。

Q: タブレット操作に楽しさを感じてしまい、本来の学びとは異なる動きをする児童への対応の仕方を教えてほしい。

A: 子供たちの活動画面を教師用の端末で見ることができるようになっている。活動が間違っている子や遅れている子の把握もできる。

〈授業内容について〉

Q: ・タブレット端末上での操作だと、分けている過程が見取りにくいように感じた。

A: 過程については、本単元では重視していない。最終的に分けることができていればよい。

Q: 式を立てるのに時間がかかったり、間違えたりした児童が多かったように思える。式の必要性はどれくらいあったのか。

A: 式に表すことで「 $3+3+3+3$ 」、3ずつであるということを理解させたかった。また、2年生の乗法・3年生の除法への素地となればと思い、式も書かせるようにした。できていない子供に対しては図で分けることができていれば本時としてはB評価と考えている。



【授業の

板書】

28

【児童のタブレット端末画面・電子黒板に投影しての発表の様子】

